

ノガン

何業恒

訳 福井和二

ノガン (*Otis tarada*) は中国では大鴉と書き、別名花豹、地花鶏などと書く。ツル目、ノガン科に属し、中国では一級保護動物に指定されている。中国名“大鴉”の鴉は別に娼婦という意味があることから、多くの人に、ノガンは淫鳥と言われている*1。なぜ、こんな汚名を着せられたのか？ それは、一般の人には、彼らの雌雄が判別し難く、群れを作り乱婚しているものと、多くの人に誤認されたものと考えられ、事実は科学的根拠は全くない。

(一)

ノガンは体が最も大きい鴉鳥とされていた。翼はやや円みを帯び、尾は短く、脚は疾走に適している。最も顕著な特徴は、趾が3本で後趾がなく*2、爪は短く扁平。体長は約103cm、翼長60cm、雌はやや小さい。頭、頸、前胸部は全体に深い灰色、喉に白く繊細で、長い羽毛が外後方に向かって髭のように突き出している。頸の基部は半ば襟状に赤黄褐色をしている。背、尾羽は濃い褐色で、粗い黒色の横斑がある。尾羽は中心より外側に向かって、次第に褐色が薄くなり、両端の尾羽は白色となる。また、先端近くに黒色のはっきりとした横斑がある。三列風切は白色、初列、次列風切は白と黒褐色で、胸から下腹部まで白色である。雌には喉下の髭がなく、後頸基部の褐色横斑がない。幼鳥は雌に似ているが、雨覆全体に褐色と黒色の横斑があり、尾羽は褐色で薄い黒色斑が多い*3。

広漠と開けた草原に生息し、多少起伏のある崗と崗の間の草地、あるいは低湿な窪地でよく見られる。走ることを得意とし、風に向かって走りながら飛び立ち、飛行は緩慢である。好んで群れをなし、鳴き声を聞くことはない。

食性は雑食、柔らかい野草と無脊椎動物をよく食べている。幼鳥は主に昆虫食・春から夏の初めにかけて比較的高い乾燥した崗の草の中に巣を作る。2~3卵を産み、抱卵は21~28日、育雛は30~35日、雌は3~4年で成熟し、雄は5~6年で繁殖に参加する*4。

(二)

ノガンは広くヨーロッパ中部、南部からアジア温帯地域に分布し、我が国では毎年春秋、新疆省、東北地方、内蒙古自治区等に繁殖し、秋に南に渡り、東北地方南部、黄河中、下流域、長江中流域で越冬する。

我が国のノガンには、二つの亜種があり、その一つは、喀什、天山、北塔山、克拉瑪依、青河、奇台、吐魯番等の新疆省西、北部、天山山脈南北の盆地地域に留鳥として生息する*5。

中国で最も広く分布する他の一つは、内蒙古草原の呼倫貝爾、科尔沁右前旗、扎賚特旗、黒龍江省の齊齊哈爾、遼寧省の遼陽、旅順、朝陽、河北省、山西省、陝西省、河南省、山東省の微山湖、甘肅省の蘭州、湖北省の漢口、江西省の鄱陽湖、福建省などに生息する*6。

歴史的記録に見る中国のノガンの分布範囲は今日に比較して広大である。新疆省西、北部に留鳥として生息する亜種を除いた、アジア東部の亜種は内蒙古自治区、黒龍江省などで繁殖している。

1. 東北区

《昌黎県誌》などにノガンの記録がある。

京津地区、清代の順天府、天津府を指す。《図書集成・方輿彙編・職方典・順天府物産考》に、また、明朝嘉靖27年(1548)《霸州誌》、清朝康熙42年(1704)《薊州誌》、乾隆7年(1742)《武清県誌》、民国17年(1928)《房地県誌》などにもノガンを産する記事がある。

天津府の滄州(今日の天津市)と塩山県に乾隆8年(1743)《滄州誌》、同治7年(1868)《塩山県誌》にも同様の記事がある。

張家口地区、旧宣化府(今日の張家口市)、万全、懷来、宣化、赤城、蔚県などの一帯にノガンが見られ、《図書集成・方輿彙編・職方典・宣化府物産考》と乾隆22年(1757)《宣化府誌》共にノガンについて記している。宣化府の宣化、万全、赤城各県に、康熙50年(1711)《宣化県誌》、乾隆7年(1742)《万全県誌》、乾隆12年(1747)《赤城県誌》に、民国24年(1935)《察哈尔通誌・物産》にもノガンを産するとある。これにより宣化はノガンの大きな生息地であったと見られる。

乾隆23年(1758)《口北三庁誌・風俗・物産》にノガンの記録があり、口北三庁とは、張家口、独石口、多倫諾爾の三庁で、現在の張家口市の北、張北、沽源、多倫の三県を指す。このうち多倫県は内蒙古自治区に属している。これらの地域は内蒙古の草原地帯で、数多くのノガンが生息していると説明されている。

保定と石家荘地区、《図書集成・方輿彙編・職方典・保定府物産考》、同書の《真定府物産考》、《河間府物産考》などにノガンの記録がある。真定府とは現在の石家荘地区のことで、この一帯の雄県、易県、新楽、正定、井隆などの県にノガンの記録がある*9。

邯鄲地区、昔、広平府といい、《図書集成・方輿彙編・職方典・広平府物産考》にノガンの記録があり、河北省南部にもかつて、ノガンが分布していたと見られる。

3. 山西省

北から南部にいたるまで分布があり、主要な所は大同府と南部の安邑など。

晋北地区、大同府、寧武府とke嵐州など、大同府は今日の大同市、大同、懷仁、渾源、応県、山陰、豊鎮、陽高、天鎮などの県と内蒙古の集寧市等を含む地域。《図書集成・方輿彙編・職方典・大同府物産考》と乾隆41年(1776)《大同府誌・風土・物産附》などにノガンの記載がある。この一帯は蒙古草原に連なり、この北部はノガンの繁殖地である。

寧武府は寧武、神池、五寨、偏関県などの地域で、乾隆15年(1750)《寧武府誌・風土》に“ノガン、山間に生息し、タカに似ているが鈍で、色は黄色、白色、ヒョウのような黒斑がある。ヘビを好んで食べる”とある。

寧武県南西の岢嵐は康熙11年(1672)と光緒10年(1884)の《岢嵐州誌》にノガンの記録がある。

晋中地区、太原県、汾陽県と泌州などの、明朝嘉靖30年(1551)《太原誌》、清朝順治14年(1657)《汾陽県誌》、乾隆36年(1771)《泌州誌》“花豹”(ノガンの別名)として記載がある。

晋南地区、絳州、稷山と解州の安邑などの地に、明朝万歴40年(1612)《稷山県誌》、同46年(1618)《安邑県誌》(現運城県)、乾隆30年(1760)《直隸絳州誌》にノガン産出の記録がある。

清朝順治年間の《河東運司誌・物産》によると、山西省の南隰、霍、絳、解の四州と平陽、蒲州の二府一帯に広くノガンを産したと記されている。

4. 山東省

雍正7年(1729)《山東通誌・物産》の中にノガンの記録あり。山東省は全省各地にノガンの生

息記録がある。《図書集成・方輿彙編・職方典・済南府物産考》、《青州府物産考》、《来州府物産考》、《登州府物産考》などでは、済南から半島の蓬来・掖県にもノガンの分布が明かになっている*10。

済南府以南の来蕪県に、明朝嘉正7年(1548)《来蕪県誌》で、泰安県に、明朝万歴31年(1603)《泰安州誌》によりノガンの生息が記されている。

泰安州(乾隆年代に府に昇格)の金郷、臨沂などにも、咸豊10年(1860)、《金郷県誌略》、民国6年(1917)《臨沂県誌》の記録から、これらの一帯にノガンが生息していたことを知ることができる。

5. 河南省

東部および南部、《図書集成・方輿彙編・職方典・帰徳府物産考》(帰徳府は現在の商丘市)、と清朝康熙44年(1705)《開封府物産考》、民国21年(1932)《商丘県誌・物産》などにノガンの記録がある。

河南省南部の確山、固始に民国17年(1928)《確山県誌・実業》、明朝嘉靖21年(1542)から清朝乾隆43年(1778)《固始県誌》などにより、この一帯にノガンの生息した記録を見ることができる。

Ⅲ. 西北区

陝西省中部、北部、西部から寧夏回族自治区、甘肅省の蘭州、慶陽などの地域。

1. 寧夏

明朝嘉靖19年(1540)《寧夏新誌》にノガンの記載がある。

2. 甘肅省

蘭州を除くほか、甘肅の東北部の、《図書集成・方輿彙編・職方典・慶陽府物産考》によれば、現在の慶陽、合水、正寧、華池、環県の一帯にノガンが分布したことが記されている。

3. 陝西省

北部の米脂から漢中府の略陽県まで広く分布していた。

米脂県、清朝康熙20年(1681)《米脂県誌・物産》に生息の記載があり、光緒33年(1907)《米脂県・物産》に“ノガンは脚に後趾がなく、体にヒョウのような斑紋がある。またの名を花豹と言う”とある。

延安府、清朝嘉慶7年(1802)《延安府誌・物産》の延綏鎮、延長県にノガン(花豹)の記録があり、延安府の宣川県に民国33年(1944)《宣川県誌・物産》の記録にノガンがある。

礼泉県、咸陽地区にあり、民国24年(1935)《統修礼泉県誌稿》に、この一帯にノガンの生息ありとの記載が見える。

渭南、華県、1985年《渭南県誌・物産・動物》に“ノガン、冬鳥”とあり、渭南以東の華県では、清朝光緒8年(1882)《三統華州誌》にノガンの記録がある。

この外、漢中地区の略陽県の、明朝嘉靖31年(1552)《略陽県誌・土産》にもノガンの記録がある。

Ⅳ. 長江中、下流地区

江蘇省、浙江省、安徽省、江西省、湖北省、湖南省などにすべて分布していたが、その数は華北地区に比較して少ない。

1. 江蘇省

長江以北に分布していた。

海州、現在の連雲港市で、東海、沐陽、灌雲などの県で、清朝嘉慶16年(1811)《海州直隸州

誌・物産》にノガンの記録がある。

陽州府、現陽州市、泰州市、宝应、高郵、興化、東台などの県を含む。明朝嘉靖 38 年(1559)《興化県誌》、万歴 32 年(1604)《泰州誌》、清朝乾隆 48 年(1781)《高郵州誌》、道光 23 年(1843)《統增高郵州誌》などに等しくノガンの記録を見ることができる。現在の調査によると*1、邵伯湖、高郵湖では、毎年春から秋にかけて水生植物が繁茂し、晩秋より水位が下降し、枯れ草に覆われた泥湿地が現われ、そこに多くの野鳥類が生息するが、少なくないノガンも越冬している。

この外、通州の如皋県では、清朝嘉慶 9 年(1804)《如皋県誌・物産》に“ノガンは、淫鳥で、脂ぎっている”と書かれたおり、根拠なき濡れ衣を着せられている。

2. 浙江省

浙江東部の紹興府に僅かな記録を見ることができる。清朝乾隆 57 年(1792)《紹興府誌・物産》、紹興府の嵊県に民国 7 年(1918)《嵊県誌・物産》などに記録がある。

3. 安徽省

鳳陽府と泗州の五河県に見ることができる。鳳陽府は現鳳陽県で、《図書集成・方輿彙編・職方典・鳳陽府物産考》、清朝光緒 20 年(1894)《重修五河県誌・物産》などに記録がある。安徽省西南部にある升金湖では、現在もまだノガンが越冬している*12。

4. 江西省

現在も鄱陽湖において越冬している。

5. 湖北省

荊州府と安陸府で見られた。荊州府北の鐘祥県に清朝同治 6 年(1867)《鐘祥県誌》荊州府の江陵で、清朝光緒 6 年(1880)《荊州府誌・物産》などにノガンの記録がある。湖北省南部には今日もなおノガンの分布があるが、その数は極めて少ない。

6. 湖南省

洞庭湖地区で清朝乾隆 12 年(1747)《長沙府誌・物産》、道光 4 年(1824)《湘陰県誌・物産》に“地花鶏、一名を花豹とも言う、土色の斑点がある。北方で寒冷が厳しくなると南に渡ってくる。草の中で夜を過ごす”とある。地花鶏とはノガンのことでこの地では冬鳥である。洞庭湖周辺では現在も分布している。

(三)

ノガンは体が大きく、肉質は上等で、野趣のある味がし、翼羽および尾羽は装飾品として珍重されているため捕獲されたり、生息環境の破壊から、19 世紀以後、急速にその数を減らし、現在は国家一級保護動物に指定されている。

*1 清朝嘉慶時代発行《如皋県誌・物産編》による。(著者注)

*2 清朝乾隆時代発行《盛京通誌・物産・鳥類編》による。(著者注)

*3 中国林業出版社発行・梁崇岐主編《新疆珍貴動物図譜》による。(著者注)

*4 中国林業出版社発行・梁崇岐主編《新疆珍貴動物図譜》による。(著者注)

*5 中国林業出版社発行・梁崇岐主編《新疆珍貴動物図譜》による。(著者注)

*6 科学出版社発行・鄭作新著《中国鳥類分布名録》による。(著者注)

- *7 方物は各地の産物の意 (訳注)
- *8 北載河を囲む内陸部 (訳注)
- *9 明朝嘉靖16年(1537)《雄乘誌・土産》, 清朝順治3年(1646)《真定県誌》, 雍正8年(1730)《井隆県誌》, 乾隆12年(1747)年《直隸易州誌》, 乾隆22年(1757)《新楽県誌》, 乾隆27年(1762)《任丘県誌》などによる。(著者注)
- *10 明朝嘉靖1年(1552)《臨qu県誌》, 清朝道光25年(1845)《重修膠州誌》, 同治12年(1873)《即墨県誌》による。(著者注)
- *11 晏安厚, タンチョウの冬期における生態観察. 中国ツル類研究, p37, 黒龍江教育出版社, 1986 (著者注)
- *12 王岐山等, 升金湖で越冬するナベヅルの観察. 中国ツル類研究, p184-187, 黒龍江省教育出版社, 1986 (著者注)